



全体的に着果量の少ない年となっています。来年の花芽形成は7～8月のこの時期ですので、樹全体に十分な日光が当たるように新梢管理を行ってください。また、低日照・多雨が続いています。病害感染などの危険性がありますので、定期散布は必ず実施してください。薬剤防除の際は、SS運転に十分注意をはらい、農作業事故の無いよう、防除を実施してください。

園地の着果状況を必ず確認してください。樹によってもバラつきがありますので、状況に応じて適正着果に努めましょう。摘果は遅くとも7月末までに実施してください。

病虫害防除

隣接園(特に収穫期の作物)に飛散しないように注意してください

7月下旬の散布(7月20日～31日頃)

散 布 薬 剤	水	100ℓ	散布日 7月 日 散布量 ℓ
	展着剤	10mℓ	
	オーソサイド水和剤80	100g（収穫7日前、5回以内）	
	劇オリオン水和剤40	100g（収穫21日前、1回以内）	
対 象 病 害 虫	落葉病、炭疽病、すす点病、アザミウマ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類、イラガ類、カキノヘタムシガ、ケムシ類、カキノヒメヨコバイ		
散 布 量	10a当り500ℓ ＊若木の場合、樹体にしっかり散布できる量を散布する		
注 意 事 項	＊昨年、落葉病が発生した園地では必ず散布する。 ＊オーソサイド水和剤 80 に代えて、スコア顆粒水和剤（前日、3 回）の 3,000 倍 を使用してよい ＊オリオン水和剤 40 は劇物登録農薬です。お求めの際は印鑑をお持ちください。		

●今後の管理について

* 新梢管理・・・主幹・主枝から出ている徒長枝を中心に、早めに整理する。

* 雑草管理・・・主幹害虫対策として、根元は常にきれいにしておく。

除草剤：バスタ液剤(収穫前日まで、3回以内)

水 100～150ℓあたり、バスタ液剤 500mℓ

* 乾燥防止・・・敷き草や敷きワラを実施しましょう。(根元 50cm 空けて厚く敷く)

次ページもご覧ください。



8月はカキノヘタムシガ（ヘタムシ）の重要防除時期となります。
芽を食害したあと果実に食入するので、芽の食害痕が散見された場合は直ちに防除をしましょう。
芽・果柄・ヘタに薬液がかかるよう丁寧に散布しましょう。

病害虫防除

隣接園(特に収穫期の作物)に飛散しないように注意してください

①8月上中旬の散布(8月10日～20日頃)

散 布 薬 剤	水	100ℓ	散布日 8月 日 散布量 ℓ
	展着剤	10mℓ	
	ダントツ水溶剤	50g（収穫7日前、3回以内）	
	トップジンM水和剤	100g（収穫前日、6回以内）	
対 象 病 害 虫	落葉病、炭疽病、うどんこ病、 アザミウマ類、コナカイガラムシ類 カキノヘタムシガ、カメムシ類		
散 布 量	10a当り500ℓ ＊若木の場合、樹体にしっかり散布できる量を散布する		
注 意 事 項	＊前回から20日以内に散布する。 ＊アメリカシロヒトリの発生園は、アディオン水和剤 3,000 倍(7 日前、5 回)を加用する。		

●8月の管理について

＊摘 果 ……まだ摘果が終了していない園地は、至急実施しましょう。

＊雑草管理 ……主幹害虫対策として、根元は常にきれいにしておく。
バスタ液剤(収穫前日まで、3回以内)
10a 当り 水 100～150ℓ、バスタ液剤 500mℓ

＊乾燥防止 ……敷き草や敷きワラ、かん水を実施しましょう。
(敷きワラは、根元 50cm 空けて厚く敷く)